

**製品名: CIITA ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08815**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	123kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CIITA
別名	CIITA; MHC2TA; MHC class II transactivator; CIITA
遺伝子 ID	4261.0
SwissProt ID	P33076
免疫原	抗血清はヒト CIITA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 706-755

**背景**

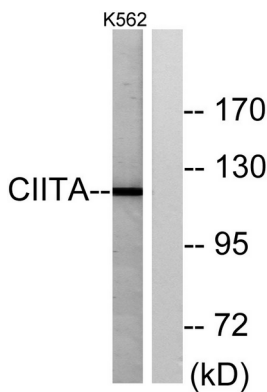
クラス II 主要組織適合遺伝子複合体転写活性化因子 (CIITA) ホモ・サピエンス この遺伝子は、酸性転写活性化ドメイン、4つの LRR (ロイシンリッチリピート)、および GTP 結合ドメインを持つタンパク質をコードしています。このタンパク質は核内に局在

し、クラス II 主要組織適合遺伝子複合体遺伝子の転写の正の調節因子として機能し、これらの遺伝子の発現における「マスター制御因子」と呼ばれています。このタンパク質はまた GTP にも結合し、GTP 結合を利用して核への輸送を促進します。核内に入ると DNA に結合せず、むしろ内因性的のアセチルトランスフェラーゼ (AT) 活性を利用してコアクチベーターのような働きをします。この遺伝子の変異は、裸リンパ球症候群 II 型 (遺伝性 MHC クラス II 欠損症または HLA クラス II 欠損複合免疫不全症とも呼ばれる)、関節リウマチ、多発性硬化症、そしておそらく心筋疾患への感受性増加と関連付けられている。CIITA の欠陥は、裸リンパ球症候群 2 型 (BLS2) [MIM:209920] の原因である。BLS2 は、早期に発症する重篤な複合免疫不全症である。本疾患は、恒常的およびインターフェロン  $\gamma$  誘導性 MHC II 発現の重大な欠陥、抗原刺激に対する細胞性および体液性 T 細胞応答の欠如、低ガンマグロブリン血症、および抗体産生障害を特徴とする。その結果、ウイルス、細菌、真菌による感染に対して極めて感受性が高くなります。機能: HLA クラス II プロモーターの転写活性に必須であり、活性化は近位プロモーターを介して行われます。in vitro 翻訳された CIITA の DNA 結合は検出されませんでした。近位 MHC クラス II プロモーターに結合する因子、転写機構の要素、またはその両方と接触することにより、タンパク質間相互作用を介してコアクチベーター様の作用を示す可能性があります。あるいは、MHC クラス II プロモーターに結合するタンパク質を改変することにより、HLA クラス II 転写を活性化する可能性があります。オンライン情報: CIITA 変異データベース、類似性: 1 つの NACHT ドメインを含みます。類似性: 4 つの LRR (ロイシンリッチ) リピートを含みます。サブユニット: ZXDA および ZXDC と相互作用します。、

## 研究分野

抗原の処理と提示;原発性免疫不全;

## 画像データ



CIITA 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。